

2 0 2 5 年 度

第 1 回

一般・G 2科4科英検利用

入 学 試 験 問 題

国 語

試験時間 45分

注 意

- 試験開始の合図<sup>あいず</sup>があるまで、この問題冊子<sup>さつし</sup>を開いて見てはいけません。
- 問題は□<sup>一</sup>から□<sup>四</sup>まであり、全部で14ページです。足りないページや、印刷が分かりづらいところがあった場合は、手をあげて監督者<sup>かんとく</sup>に申し出てください。
- 解答用紙と問題冊子の決められた場所に受験番号を記入してください。
- 答えはすべて解答用紙の決められた欄<sup>らん</sup>に記入してください。
- 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書いてください。
- 試験終了後、監督者の指示にしたがって解答用紙を問題冊子とともに提出してください。
- 特に指示の無いかぎり、句読点や記号は1字で数えます。

佼成学園女子中学校

受験  
番号

□ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

次の文章は、第二次世界大戦末期、父の都合でドイツの首都ベルリンからある町に引っ越してきた九歳の少年ブルーノが、ポーランド系ユダヤ人で同じ歳のシウムエルとひよんなことから「フェンス越し」に友情がめばえ、いつものように語り合っているところから始まります。これを読んで後の問いに答えなさい。

いつもの場所で、フェンスをはさんですわっているとき、ブルーノはふともらした。「<sup>①</sup>ほくたちの友情って、ものすごく奇妙だよ。こんな

なにが？」

「だって、友だちっていうのはふつう、いっしょに遊ぶ仲間でしょ。ほくたち、一度もいっしょに遊んだことないもの。ほくたちはただすわってしゃべってるだけ」

「ほくはこうしてすわって、しゃべってるの、好きだな」シウムエルはいった。

「ああ、もちろんほくもだよ。でも、ときどきはもうちょっと楽しいことができないかって、残念に思うんだ。たとえば、ちょっとした探検とかね。サッカーでもいいし。ほくたちはいつも、このフェンスにじゃまされてるから」

ブルーノはしょっちゅう、こんなことをいっていた。数か月前にシウムエルとの友情を否定した<sup>※1</sup>あの事件などなかったかのようなふりをしたからだ。あのときのことを考えるといまでも胸が痛み、情けない思いでいっぱいになってしまおう。もつとも、シウムエルはきれいさっぱり忘れてしまったかのように見えた。

「いつかは遊べるかもしれないね」シウムエルはいった。「ほくたちをだしてくれる日がくるのなら」

ブルーノは「フェンスのこちら側とむこう側のことを、日増しに真剣に考えるようになっていた。そもそも、どうしてフェンスがあるのかも。お父さんかお母さんにきいてみようと思ったこともあったが、その話題をだしたら怒りだしそうな気がしたし、シウムエルやシウムエルの家族について、なにか不愉快なことをきかされるかもしれないも思った。そこでブルーノはともめずらしい行動にでた。サイアクの<sup>※2</sup>グレートルにたずねてみたのだ。

(中略)

「入っていい？」ブルーノは礼儀正しくドアをノックしながらいった。だまって部屋に入ったらどれほど怒るかわかっている。

「なんの用なのよ？」鏡台の前で髪をいじっていたグレーテルがたずねた。

「べつに」

「じゃあ、でてって」

ブルーノはうなずきはしたものの、どんどん進んでベッドに腰かけた。グレーテルは横目でブルーノを追いかけていたが、なにもいわなかった。

「ねえ、グレーテル」ブルーノはようやく話しはじめた。「ききたいことがあるんだけど」

「さっさといいなさいよ」

「このシューヨージョって町は……」話しはじめたとたんグレー

テルにじやまされた。

「収容所っていうのは町の名前じゃないの」ここに暮らしはじめてから、<sup>②</sup>いろいろなことを知ってしまったグレーテルは、世界の歴史はじまって以来のまちがいをおかしたかのように怒っている。「どうして、ちゃんとおぼえられないのよ」

「でも、ここはシューヨージョでしょ？」ブルーノはいいかえす。

「だから、場所の名前じゃないっていつてるじゃない」

ブルーノはわけがわからず肩かたをすくめた。

「でも、どうでもいいわよ」もともと短気なグレーテルは、すでに「さじを投なげている。「で、なんだっていつてるの？ なにを知りたいのよ？」

「あのフェンスのことなんだ」ブルーノはきつぱりといった。いちばん知りたいのはそれだ。「どうして、あんなフェンスがあるの？」

グレーテルはいすを回して、おもしろそうにブルーノを見た。「あんだ、まさか知らないの？」

「知らないよ。ぼくたちがどうしてあっち側にいつちやいけないのかもわからないよ。あっち側にいつて遊んじやいけないほど、ぼくたちになかわるいことしたの？」

グレーテルはあきれたようにブルーノを見つめ、それからとつぜん笑いはじめた。だが、ブルーノが真剣そのものなのに気づいて、笑うのをやめた。

「ブルーノちゃん」世界でいちばん、わかりきったことを話すのだともいうように、おどけた調子で話しはじめた。「あのフェンスはね、わたしたちがあっち側にいくのをふせいでるわけじゃないの。あいつらが、こっち側にこないためのものなのよ」

ブルーノは考えこんだが、やはりよくわからない。「でも、どうして？」

45

70

「あいつらは、一か所に押しこめておかなくちゃいけないから」  
「家族ごとってこと？」

「まあそうね。おなじ人種の連中をね」

「おなじ人種？ どういうこと？」

グレーテルは首をふりふりため息をついた。「ユダヤ人よ、ブルーノ。あんたは知らなかったの？ ユダヤ人だから一か所に押しこめておくの。わたしたちと交じり合わないようにね」

「ユダヤ人」ブルーノはそのことばをたしかめるように声にだしてみた。音の響ひびきは心地こちよかった。「ユダヤ人」もう一度くりかえす。「フェンスのむこう側の人たちは、全員ユダヤ人なんだね」

「そう、そのとおり」

「ぼくたちは、ユダヤ人？」

グレーテルはぼかんと口をあけた。「ちがうわよ。そんなわけないじゃない。冗談じやうだんでもそんなこといわないでちょうだい」

「でも、どうして？ じゃあ、ぼくたちはなに人？」

<sup>③</sup>「わたしたちはね……」そういいはじめたものの、途中で止とまってしまった。「わたしたちはね……」もう一度いったものの、どう答えたらいいのかよくわからない。「わたしたちは、ユダヤ人じゃないのよ」最後にそういった。

「それはわかったよ」ブルーノは納得なつとくできずに、さらにいう。「ぼくがきいてるのは、ユダヤ人じゃないのなら、ぼくたちはなんなのかってことだよ」

「わたしたちは **Y** なの」すばやくそう答えたグレーテルは、自分の答えに満足げだった。「そうよ。わたしたちはユダヤ人の正反対なの」<sup>④</sup>「ユートーシユカ」ブルーノはようやく答えがきけてうれしくなった。

90

85

80

75

「ユートーシユはフェンスのこつち側で、ユダヤ人はむこう側に住んでるんだね」

「そういうこと」

「ユダヤ人はユートーシユがきらいなの？」

「ちがうわ。わたしたちがユダヤ人をきらってるのよ。バカね」

ブルーノは眉をひそめた。ことあるごとに、バカといっってはいけな  
いといわれているのに、まだしつこくつかっている。

「それじゃあ、どうしてぼくたちはユダヤ人がきらいなの？」

「それはユダヤ人だからよ」

「そっか。ユートーシユとユダヤ人は仲良くなれないんだね」

「そういうこと」グレーテルの口ぶりは異常にゆっくりしていた。い  
じっていた髪の毛のなかになにか変なものを見つけて、そちらに気をと  
られたからだ。

「それで、だれかが、ユダヤ人を一か所に押しこめて……」

ブルーノのことは、グレーテルのつんざくような悲鳴にさえぎられ  
た。あまりに異様な声に、昼寝をしていたお母さんが目を覚まして、あ  
わててかけつけたほどだった。ふたりが殺しあいでもしているのではな  
いかと思ったのだ。

髪をいじっていたグレーテルが発見したのは、小さな卵だった。ピン  
の頭ほどの大きさもない卵だ。お母さんに見せると、あわててグレーテ  
ルの髪をあちこちいじり、すばやく何本かひきぬいた。次にはブルーノ  
に歩みよっておなじことをはじめた。

「ああ、なんてことでしよう」お母さんは腹立たしげにいった。「こ  
んなところで暮らしていたら、いまにこうなると思っていたのよ」

グレーテルとブルーノの髪の毛のなかにいたのはシラミだった。グ

115

110

105

100

95

レーテルはひどいにおいのする特別なシャンプーで頭を洗われた。グ  
レーテルは、その後何時間も部屋にとじこもってさめざめと泣きつづけ  
た。

ブルーノもおなじシャンプーで頭を洗われたが、そのあとお父さんの  
命令で、カミソリをつかって、きれいさっぱりそり上げられてしまった。  
これにはブルーノも泣いた。髪をそり終わるのはあつというまのこと  
だった。頭から髪が散って、足元の床に落ちるのを見ているのはつら  
かったが、お父さんはしかたがないといった。

そり終えて、バスルームの鏡に映った自分の姿にショックを受けた。  
頭の形はごつごつとぶかっこうだし、目が異常に大きく見える。自分の  
姿に恐怖を感じたほどだ。

「心配するな。すぐにまた生えるさ。何週間かのがまんだ」お父さんは  
そう請けあった。

「このあたりは不潔なのよ。そのせいなんだわ」お母さんはいう。だれ  
かさんには、この場所がわたしたちにどんな影響をあたえるのか、よく  
考えてほしいものだわ」

鏡のなかの自分は、おどろくほどシムエルに似ていると思った。  
フェンスのむこう側の人たちがみんな頭をそられているのは、シラミの  
せいなんだろうと思った。

次の日、ブルーノの姿を見たシムエルは笑った。

「ぼく、きみとそっくりになっちゃったよ」ブルーノはまるでそれが  
おそろしいことでもあるかのように、悲しげにいった。

「ただ、ずいぶんふくらしてるけどね」シムエルはいった。

(ジョン・ボイン作 千葉茂樹訳『縞模様のパジャマの少年』)

\*本文は設問の都合上、一部表記を改めてあります。

140

135

130

125

120

※<sub>1</sub> あの事件……この場面の少し前に、ブルーノがシユムエルを裏切るよ  
うな言動をしたことを指す。

※<sub>2</sub> グレーテル：ブルーノの三歳上の姉。気が強くブルーノとは折り合い  
が悪い。

問一 ——線部A「さじを投げて」、B「眉をひそめた」について、本

文中の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号  
で答えなさい。

A ア 投げやりになり、席を立って

イ いらいらして口調が荒あくなつて

ウ 見こみがないとあきらめて手を引いて

エ 許せないと思い、話を打ち切つて

B ア 怒いかりをこらえ、目を閉じた

イ 意外なことに驚おどろいた

ウ 気まずく感じ、顔をそらした

エ 不快に思い、顔をしかめた

問二 ——線部①「ぼくたちの友情って、ものすごく奇妙だよ」とあ

りますが、ブルーノはなぜ「奇妙」だと思ったのですか。四十字以  
内で説明しなさい。

問三 — 線部②「いろいろなことを知ってしまった」とありますが、

グレーテルはどのようなことを知ってしまったと考えられますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 収容所には不衛生で不健康な人々が暮らしているため決して近寄ってはならないということ。

イ この町のフェンスは誰もが知っている世界史的に有名な場所であるということ。

ウ フェンスの向こう側には危険で凶暴な人たちが収容されているということ。

エ フェンスの向こう側はユダヤ人を隔離する収容所であるということ。

問四 — 線部③「わたしたちはね……」とありますが、このとき

のグレーテルの心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ユダヤ人を劣った人種だとし毛嫌いするものの、いざ自分たちが何者かと問われると、ブルーノが納得できるように説明できず戸惑っている。

イ 自分たちはユダヤ人のように劣った人種ではないと信じていたものの、実際にはそんなことはないと思いはじめている。

ウ この町で暮らすうちに弟がユダヤ人に取り込まれてしまい、かれらを迫害する自分に敵意を持っているのではないかと警戒している。

エ 自分たちが秘密にしている収容所の存在に気付いた弟をごまかすために、ユダヤ人を閉じ込めておく理由を説明しようとむきになっている。

問五 — 線部④「ユートーシユ」とありますが、これに漢字を当てる

と Y に入る語になります。次の語群から漢字三字を組み合わせて答えなさい。

語群

勇・有・優・等・頭・答・種・手・守

問六 — 線部⑤「こんなところで暮らしていたら、いまにこうなると

思っていたのよ」とありますが、この文を次のように言い換えたとき、1 2 に当てはまる言葉を1は二字、2は三字でそれぞれ本文中からぬき出しなさい。

こんな 1 (二字) などところで暮らしていたら、いまに頭に

2 (三字) が移ると思っていたのよ。

問七 — 線部⑥「ほく、きみとそっくりになっちゃったよ」——線

部⑦「ただ、ずいぶんふくらしてるけどね」とありますが、この時の二人の会話についての説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ブルーノはシラミのために頭をそり上げられるという屈辱くつじよく的な仕打ちに恐怖を覚えていた。一方、シユムエルはこれまでの彼かれとの間の上下関係を逆転できるチャンスだと感じ始めた。

イ ブルーノは頭をそられてフェンスの内側の人たちと同じ立場に置かれたような気がしていた。一方、シユムエルは多少の親近感を覚えつつも結局のところ自分とは別世界にいることを感じ取った。

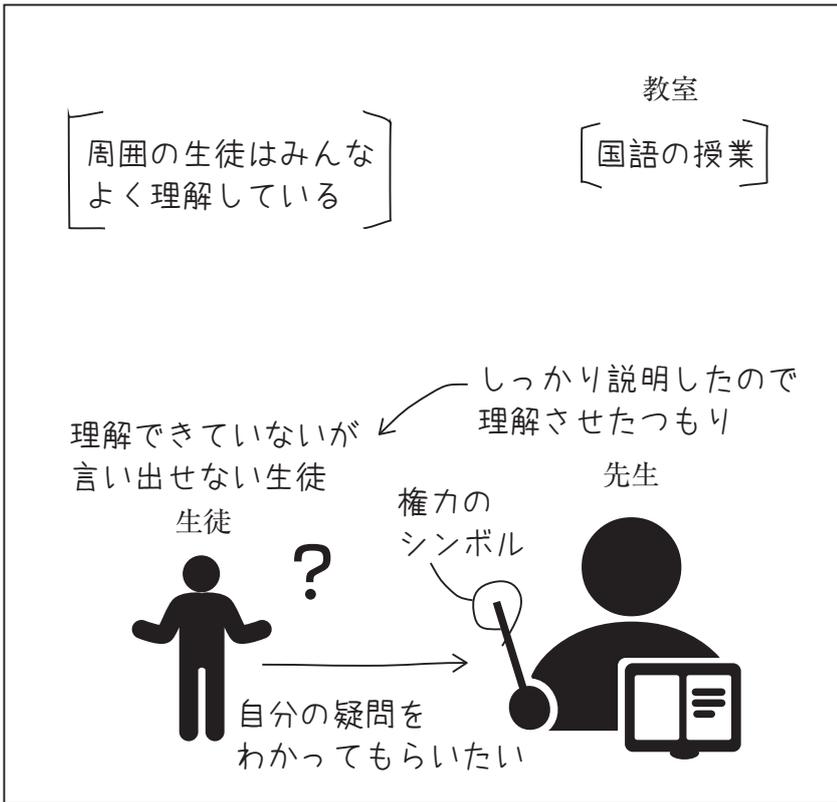
ウ ブルーノは頭をそられたことでシユムエルには親しみを感じてもらえるのではないかと期待していた。一方、シユムエルは彼の樂觀的な態度にいらだち皮肉めいたことを言った。

エ ブルーノはフェンスの向こう側でみんな頭をそられている理由が分かり恐怖を覚えた。一方、シユムエルにとってはそれはごく普通のこと過ぎず大きな反応をする彼を子供じみた態度だと感じた。

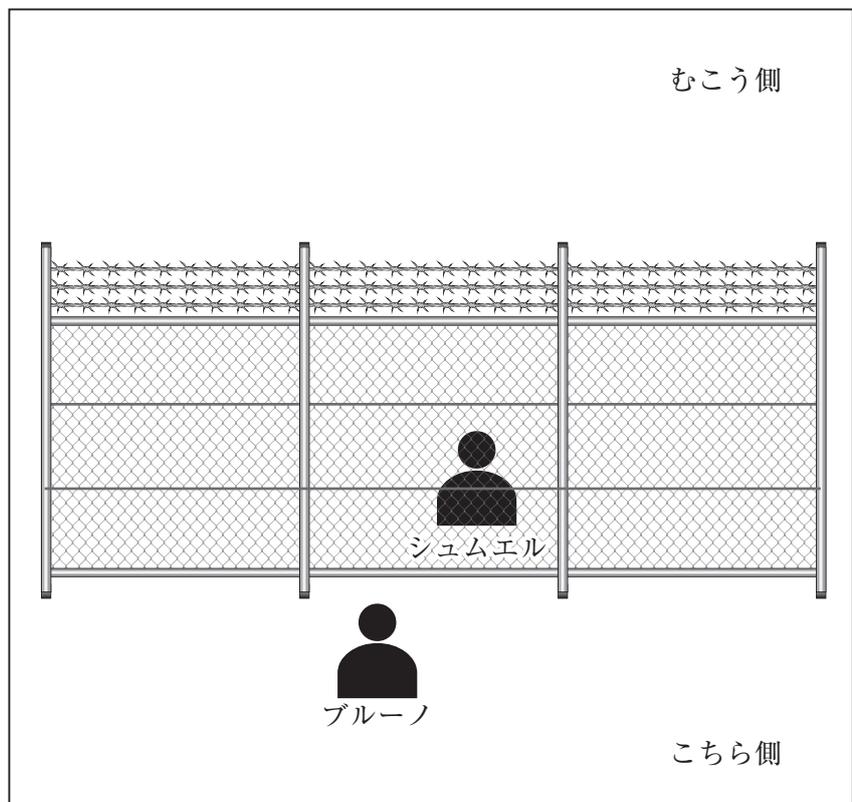
問八 〰〰線部X「フェンスのこちら側と向こう側」について、次の問いに答えなさい。

この場面を下段の図のようにイメージしてみてください。二人の心情や置かれた状況、フェンスの意味などについてあなたの考えを自由に解答用紙の図中に表現してください。記述の仕方は左図の解答例を参考にしてください。ただしこの例は本文とは全く関係はありません。

解答例



解答用紙に直接書きこんでください



二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

もう一つ、これも僕の著書『民主主義のつくり方』（筑摩選書）で取り上げている話ですが、アメリカのプラグマティズムの思想を紹介しましょう。

まずは、この言葉を聞いたことはないですか。「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。① 習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる」。聞いたことある人いますか？

A-----（数名挙手）

何人かいますね。読売ジャイアンツやニューヨーク・ヤンキースで活躍した松井秀喜さんという野球選手がいますよね。彼はまじめな読書家で、<sup>A</sup>座右の銘を問われて答えたのが、この言葉だったそうです。ウィリアム・ジェイムズ（一八四二—一九一〇）というアメリカのプラグマティズム思想家の有名な言葉です。

たとえばみなさんが、明日から自分はまったく違う人になるぞ、バリバリ勉強して、クラスでも積極的に発言するぞ、町でおじいちゃんおばあちゃんを見かければ明るくあいさつするぞ、と思っても、なかなか実現は難しいですよ。いきなり人は変わらないものです。

それでも、ウィリアム・ジェイムズはこう言います。まずはちよつとだけ決意する、そうすると行動が変わる。（X）一日一回は街で会う人に挨拶をしてみてもどうか。学校で警備員さんに「おはようございます」「さようなら」を言ってみるのです。ちよつとだけ行動を変えて、繰り返し返していると、それがだんだんと習慣になってくるのです。そうなればしめたものです。<sup>B</sup> 次第次第に、あなたのイメージも変わってきます。それが積み重なれば、あなたの人格さえも変わるとジェイムズは言

います。

人格なんていうと、変えるのが難しいように思いますよね。しかし、ジェイムズに言わせれば、人格というのは、あなたをつくり上げる習慣の集合に過ぎないのです。逆に言えば、習慣を少しずつ変えていけば、自ずと人格も変わっていくのです。

（中略）

プラグマティズムは、現代を生きる僕らに合うのではないでしょうが。一人ひとりの人間がまずは自分の習慣から変えていく。それが重なれば、自分の運命だけではなく、社会そのものも変えていけるのではないか。プラグマティズムの思考はそうように展開していきました。

プラグマティズムのもう一人有名な思想家、ジョン・デューイは、民主主義とは一人ひとりが実験していける社会のことではないかと主張しました。ルソーが言うように、社会の共通の意志を実現するのが民主主義ではなく、むしろ各個人がそれぞれの人生をかけて、自分の思いを試してみるのです。結果として社会も変わっていくのではないかというのが、プラグマティズム的な民主主義理解です。

僕は、いまはこちらの民主主義理解の方がいいかなと思っています。

みなさん、どこかでこの人の顔を見たことがあるでしょう。アメリカ<sup>C</sup>公民権運動の指導者、<sup>②</sup>マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師（一九二九—一九六八）です。キング牧師といえば、「私には夢がある（I have a dream）」という演説で有名ですよ。南北戦争の後も、法律的には解放されたはずの黒人に対する差別は依然として残りまし

た。このような差別と戦ったキング牧師は、諦めることがありませんでした。いつの日か、みんなが真に平等な社会が実現することを、自分は信じている。だから「私には夢がある」というわけです。

(Y)、ただキング牧師が演説すれば、それで現実が変わるといっわけではありません。なぜ公民権運動が盛り上がり上がっていったのかを、ニューヨークタイムズ紙のチャールズ・デューヒッグという記者が分析した本があります。『習慣の力(The Power of Habit)』(講談社+α文庫)です。このタイトルは、ウィリアム・ジェイムズの言葉から来ています。公民権運動の始まりはこうです。ローザ・パークスという黒人女性がバスの座席に座っていると、運転手から「お前、立て」と言われます。黒人は白人に席を譲れというわけです。これに反論して従わなかったパークスは逮捕されてしまいます。そのような法律だったのです。これはおかしいということで、友人たちが抗議をしたのですが、無視されてしまいます。このままでは活動継続も難しくなるということで、支援者たちは毎週時間を決めて集まり、市役所前で抗議をすることにしました。毎週、同じ時間に同じ場所に集まり、「ローザ・パークスを解放しろ」と要求したのです。

この結果、何が起きたのでしょうか。それまで活動に参加していなかった人の中から、少しずつこの集まりに加わる人が増えてきたのです。パークスの逮捕をおかしいとは思っていたけれど、自分は何をすればいいのかわからなかった人たちが大勢いました。そうした人たちが、「ここに来ればいいのか」と集まるようになったのです。まさに「習慣の力」ですね。次第に人数が集まるようになることで運動が拡大し、そこにキングさんが来て演説をしたわけです。

言葉だけではなかなか人は動きません。それでも、少しずつ習慣化さ

50

55

60

65

70

れた変革の動きがすでにあり、それに弾みがついた段階でキングさんの言葉が加わったからこそ、爆発的に運動が発展したのです。

もちろん、それで問題が一気に解決したわけではありません。いまでも差別の構造は残っています。それでもいろいろな実験を繰り返すことで、少しずつではあれ社会を変えていこうとするのが、プラグマティズムの民主主義です。

すべてが完璧に準備されてから行動するのでは、時間が過ぎるばかりです。とりあえず、やってみよう、そしてその結果を見て、修正すべき点は修正していこう。そういう発想です。うまい具合にいけば、それをみんなが真似するようになります。それはやがて習慣となり、社会を変えていきます。一つの革命ですべてをいきなり変えようとするのではなく、実験を重ねていくのが、プラグマティズムです。現代のようになかなか一つの正解が見出せない時代において、プラグマティズムは有効なやり方だと思えます。

(宇野重規『未来をはじめ「人と一緒にいること」の政治学』)

\*本文は設問の都合上、一部表記を改めてあります。

※ 公民権運動：黒人や他の少数グループが、教育、労働、住居、選挙、裁判などの分野における人種差別に抗議し、白人と同等の権利の保障を要求するアメリカの運動。

75

80

85

問一 (X) (Y) にあてはまる接続語として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア すなわち
- イ たとえば
- ウ それでも
- エ あるいは

問二 ——線部A「座右の銘」、B「次第次第に」、C「依然として」の本文中の意味として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- A ア 最も心を動かされた思い出
- イ 常に胸に刻んでおきたい言葉
- ウ 有名なスポーツ選手の習慣
- B ア 少しずつ順々に
- イ 見る見るうちに
- ウ なりふりかまわず
- C ア だいぶ昔から
- イ あいも変わらず
- ウ わずかながら

問三 ——線部①「習慣が変われば人格が変わる」とありますが、この言葉を述べた人は、「人格」をどのようなものにとらえていますか。本文の言葉を用いて十五字以内で説明しなさい。

問四 ——線部②「マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師」とありますが、筆者は何のためにキング牧師の話をしているのですか。本文全体の展開を踏まえた説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- A キング牧師の演説が効果を発揮したのは、人々の習慣的な行動があつたからだと言張するため。
- イ キング牧師の言葉は人々に届かず、白人による黒人への差別が続いたことを明らかにするため。
- ウ キング牧師の感動的なスピーチから、アメリカの公民権運動が始まったことを示すため。
- エ キング牧師によってアメリカの黒人差別がなくなり、平等な社会が実現したことを強調するため。

問五 本文で用いられている……線部の表現から分かることの説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ……線部ア「——（数名拳手）」という表現から、筆者は複数の聞き手の前で講演する形で、自分の考える民主主義のあり方を語っていることが分かる。

イ ……線部イ「自分は信じている。」という一文に「です」「ます」という語がついていないことから、筆者が平等な社会の実現を力強く訴えていることが分かる。

ウ ……線部ウ「『習慣の力 (The Power of Habit)』』という二重かぎかつこを用いた表現から、筆者がこの本を読者に強くすすめていることが分かる。

エ ……線部エ「もちろん」という表現から、差別問題が一気に解決したわけではないという事実を、筆者が最も強くうったえようとしていることが分かる。

問六 ——線部「プラグマティズムは、現代を生きる僕らに合うのではないでしょうか」とありますが、なぜ筆者はそうに考えるのですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。本文全体の筆者の主張を踏まえて考えること。

ア プラグマティズムの思考はスポーツの世界で取り入れられてから少しずつ広がり、現代では多くの人々がよく知る考え方となったから。

イ プラグマティズムの思考は有名な思想家たちによって唯一ゆいいつの正しい考え方であることが明らかになったため、学校教育で広く教えることができるから。

ウ 現代は一つの正解を見出すのが難しい時代であるため、個人が実験を繰り返すことで少しずつ社会を変えていくプラグマティズムの思考が有効だと考えられるから。

エ 現代は一人ひとりの習慣が重視される時代であるため、規則正しく生きることを理想とするプラグマティズムの思考は多くの人にとって受け入れられやすいから。

問七 この文章が出題された入試の翌日、受験生のAさんは、小学校の担任の先生と対話しました。次の対話文を読み、(①)～(③)にあてはまる最も適当なことを、①と③はそれぞれ本文から、②は対話文からぬき出しなさい。

【対話文】

先生 昨日の佼成学園女子の入試、どうでしたか。

Aさん 国語がちょっと難しかったけれど、文章が面白かったです。

先生 それは良かったですね。どんな文章でしたか。

Aさん ウィリアム・ジェイムズという人の言葉が紹介されていました。

先生 アメリカで(①)の思想をとらえた人ですね。

Aさん 先生もご存じですか。

先生 (①)は、完成された理論よりも行動の積み重ねを大切にすることを考え方ですね。私はジョン・デューイを尊敬しています。

Aさん デューイも文章に出てきました！

先生 デューイは教育学者としてこんな本も書いていますよ。

Aさん 『民主主義と教育』ですか。ちょっと見えていいですか。わあ、たくさん書きこみがしてある！

先生 そうですね。ここに教育とは何かが書かれてあります。

「教育とは、経験の意味を増加させ、その後の経験の進路を方向づける能力を高めるように経験を改造ないし再組織することである」

Aさん 何言っているかさっぱり分かりません！

先生 先生だって少しずつ分かるようになったのですよ。ほら、この一文のキーワードは何だと思いますか。

Aさん うーん、何度も繰り返されている(②)という言葉ですか。

先生 その通り。デューイは、一つの(②)の意味を高めて、それを次の(②)に生かすようにすることが教育だと考えているわけです。

Aさん ジェイムズは、行動が繰り返されて(③)となり、やがて個人や社会を変えていくと言っていたけれど、デューイは単に行動を繰り返すのではなく、その意味を高めることが次につながると考えたのですね。二人の違いが見えて面白い！

先生 あなたも中学生になったら、きっと自分の人格や運命を変える(②)ができますよ。

問八 本文では「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる」というジェイムズの言葉が紹介されています。あなたなら、これからの人生でどのようなことができると思いますか。

次の（ 1 ）（ 2 ）（ 3 ）にあてはまるように、それぞれ具体的に考えて書きなさい。本文で示された例とは異なるものも考えて書くこと。

「心が変わる」 新しいことをしようと小さな決意をする。

「行動が変わる」 （ 1 ）

「習慣が変わる」 （ 1 ）で書いたことを毎日続ける。

「人格が変わる」 （ 2 ）

「運命が変わる」 （ 3 ）

### 三

①～⑩の——線部について、カタカナは漢字に、漢字はひらがな  
に直して答えなさい。

- ① 率先して動くことが大切だ。
- ② 得体の知れない人だ。
- ③ 土地を分割して分け与える。
- ④ 神社の境内をそうじする。
- ⑤ 発表会の案を練り直す。
- ⑥ 世界イサンを訪れる。
- ⑦ コウスイ確率が上がっている。
- ⑧ ドローンをソウジユウする。
- ⑨ 彼女はとてもホガらかな人だ。
- ⑩ 小さな商店をイトナむ。

### 四

①～⑤には慣用句が用いられています。□に身体の一部を表す  
漢字を入れて、慣用句を完成させなさい。

- ① お互いに遠慮せず、□を割って話そう。
- ② □塩にかけて育てた野菜。
- ③ すばらしい成績に□を卷いた。
- ④ 彼女は□火を切って話し出した。
- ⑤ テストでよい点を取れて、□が高い。